

2018Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	服部佳苗
大会名	IODA アジア & オセアニア選手権
開催地	グエサウン ミャンマー
大会期間	11月10日～17日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	ヤンゴン国際空港からバスで6時間かかるグエンサンは、美しい海に囲まれ、いくつもの大型宿泊施設が点在する高級リゾートエリアでした。とはいえ高級リゾートと呼べるホテルの一步外に出ると、そこはミャンマーの人達の日常があり、貧富の差を感じました。気候は日が出ると暑く感じましたが、体調を崩すほどの暑さではありませんでした。
宿泊場所	公式宿舎のグエンサンヨットリゾートはとても素敵なホテルでした。ミャンマーのマリンスポーツの普及と発展を願って、国際大会を誘致する為に建てられたというこのホテルは、ハーバーと宿泊部屋との距離が近く、食事をするレストランもバイキングメニューが充実していてとても快適に過ごすことが出来ました。
大会のサポーターへの対応は	同じホテルに宿泊できたこと、同じダイニングで食事ができたことなど、サポーターへの対応も選手同様でどれも素晴らしく、お陰で私達も選手に十分にサポートすることが出来ました。主催者からミャンマーの民族衣装をサポーター全員にプレゼントしていただき、閉会式では全員で着て参加しました。競技参加が遠征の第一目的ではありますが、それだけでなく国際親善という素晴らしい経験ができたことに感謝です。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	レース後は清潔な部屋でゆっくりと休養でき、フルーツやサラダが充実した食事のお陰でお腹の調子も良かったので、皆元気に笑顔で過ごしていました。心配されていた水の問題もなく、胃腸炎などの問題もありませんでした。
サポーターとして気をつけたことは？	後半は選手達も疲れがたまってきたようなので水着などやチームTシャツなどの洗濯を手伝いました。毎日おにぎりを作って持たせました。部屋では味噌汁やカップ麺などを食べていたようですが、ストレスをためないことが大事なので、部屋での間食は自由にさせていました。
海外の選手を見て感じたことは？	国によってチームの雰囲気や考え方が全く違うと感じました。積極的にコミュニケーションをとるチームもあれば、レースに集中し他のチームとはあまり接触しないチームもありました。テクニカルスキルでは学ぶものが多く、とても良い刺激になったようです。

日本の選手を見て感じたことは？	勝負にこだわり、積極的に攻める様子はさほど感じられませんでした。でも良い意味でリラックスしていて、チームメイトを思いやり助け合う様子や、日本とは違う素敵な景色や環境を楽しむ中で、男女とも友情を育んで良いチームになっていく課題が見て取れました。他チームともコミュニケーションがとれていて、充実した時間を過ごしたようです。感受性豊かな彼らの年齢でできる限りの、とても貴重な経験と大きな収穫を得た10日間だと思います。
Spare day の過ごし方は？	Spare Dayはありませんでしたが、毎日のレース後の自由時間は、ホテルのプールで遊んだり、大会が用意してくれたアクティビティを満喫しました。
日本チームとしての課題はありましたか	特に課題は感じませんでした。強いて言うなら、引率の保護者の数が多いかもしれませんが、今回の宿泊施設はハーバー併設していて移動もなく、食事場所の確保などもなかったので全く問題はありませんでした。日本国内でもっと合宿が出来たらよかったと思います。
JODAへの要望	NT 統一ユニフォームを作るべきです。 フォーシーズンから提供されるユニフォームに日の丸が入ればそれで十分だと思います。
その他	

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会